# 港北の消防

第52号
平成27年4月1日
編集
横浜市港北消防団
(港北消防署内)

## 港北区消防団出初式に参加して

新羽町連合町内会　会長　大谷　佐一

一月十日、今年の出初式は晴天に恵まれ、例年に比べて穏やかな中で、日産スタジアム駐車場を会場にして行われました。岸根囃子連によるお囃子と獅子舞で始まり、開会式に続いて、永年勤続優良消防団員、一般消防功労者、防災活動に貢献のあった方々への表彰がおこなわれました。続いて神港鳶職組合による木遣りや威勢の良い纏振り、梯子のりが披露され、特に梯子のりの親子亀の技には心がほのぼのとなりました。また、横浜市立小机小学校マーチングバンドの演奏に合わせて、消防車両と団員の方々の行進も行われ、その規律正しい動きには頼もしさを感じました。その後、横浜市長からのメッセージの代読、消防局長や来賓の方々からの祝辞があり、第一部が終了しました。第二部は、尚花愛児園鼓隊による、かわいい園児たちのほほえましい演奏から始まりました。今年は、阪神淡路大震災から二十年目の節目にあたりますが、首都圏でも近い将来、首都直下型地震や異常気象による自然災害がおきる可能性が高いと言われています。それらを想定した減災防災の訓練がおこなわれ、災害への迅速な備えがなされていることを心強く感じました。最後は、ウォーターカーテン用ホースを使った延焼防止、避難路の確保、消防隊と消防団との一斉放水で出初式の幕を閉じました。

無事に式が終了して、今年一年が平穏な年になるよう願うものです。消防団の皆様には、日頃からの防火防災活動、啓発活動等への取り組みに深く感謝申し上げますと共に、今後とも、ご健康に留意されてご自身の安全を最優先に守りながら、消防団活動にご尽力くださいますようお願い申し上げます。

連合町会としましても、地域の住民の皆様や消防団の方々と信頼関係を深め、連携して安心・安全な街づくりに、今後とも邁進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

## 夜間の合同訓練に参加して

第二分団　第三班　渡邉　修

去る平成二十六年十一月十八日、篠原消防出張所にて消防隊と消防団の夜間合同訓練に参加しました。具体的に実際の住宅火災を想定した訓練というもの、夜間というのも初めてでした。

道の狭いこの地域の特徴に合わせ、ホースは四〇ミリ、小回りの利くガンタイプの筒先を使用しました。住宅の二階に洋室、隣に和室があり、洋室から出火し、消火活動をしながら、梯子で和室から侵入し、人を救助するという設定でした。最初に隊員の見本演技があり、次に屋内で機材の説明と体験、その後に屋外で訓練を行いました。私は、長い二段梯子を下で支えて確保する役目になりました。梯子の両外側の持ち手部分をつかみ腕を伸ばしてしっかり支えると、腰を下ろして踏ん張っても、握力と二の腕にかなりの負担がかかりました。危険なのでゴーグル無しでは上を向いてはいけません。足元も室内での予備訓練と違い、砂利で足がすべりバランスを崩したり、人が登っていると、思ったよりも反動があることなど、実際に体験してみないと分からないことが沢山ありました。きびきびと作業をする隊員の方々や、自分の役目だけで精一杯な私と違い、先輩団員の方々は、すぐに訓練での問題点や改善点などを議論していて、さすがだと思いました。指示をすぐに理解して動けなかったり、反省点も多々ありましたが、何とか最後は、負傷者を救助し訓練を無事に終えることが出来ました。

最後に、小玉所長から消防団がサポートすることで隊員の行動に余裕が出来て、安心して消火救助活動が出来ると言って頂きました。

今まで何度か火災の現場に出動しましたが、いつも交通整理しかしたことは有りませんでした。今回の訓練を受けて、今後はそれに加えて活動の領域が広がることも想定して、より身を引き締めていきたいと思います。

## 署員との連携訓練終えて

第一分団　分団長　羽鳥　勝実

台風十九号が、日本列島を縦断するのではと心配されていた十月十二日(日)午前中小机消防出張所において、第一分団一班と二班とで、出張所署員との訓練が行われました。この訓練の目的は、災害現場での団員と署員の連携をお互いに顔の見える関係を深めるということです。分団の班を二つに分けて訓練をするのも、今回が初めての試みです。

また三班と四班は十一月三十日に同じく出張所署員と訓練を行いました。

今回は災害現場で署員が建物の上にあがる際に、二連梯子の確保を団員が行い、上にホース並びに筒先を巻き結びにして、引き上げるという訓練を行いました。団員達の積極的な訓練参加により、予定していた時間があっという間に終わった訓練でした。この訓練は一回で終わりでなく、今後も継続して行きたいと思います。話は変わりますが、先の台風十七号の際には、二号配備が発令されて、小机消防出張所に第一分団本部を開設して、デジタル無線機を使用して、団本部と連絡を取りました。その祭に鳥山川が増水中という連絡を受け地元の二班に巡回してもらい写メールを活用して、署まで送信を依頼しました。今後災害時には、デジタル無線および写メールが有効な手段になるのではと思われます。

最後になりますが、香川分団長のご逝去によりまして、十月の辞令により分団長に任命されました。身に余る大役ですが、皆様方のご協力の程宜しくお願い致します。

## 給水拠点連携訓練に参加して

第二分団　第四班　堀川　直次

首都直下型大地震等の大規模災害発生時の防火・防災力強化の為、消防活動拠点の消防署と消防団との連携訓練が去る平成二十六年十一月二十三日に篠原西町公園にて実施。当日は武笠港北消防署長、小玉篠原出張所長、鈴木小机出張所長の指揮の下、港北指揮隊・第二消防隊、篠原消防隊・ミニ隊、小机消防隊等の消防署の各参加部隊と港北消防団第二分団団員が参集。篠原自治会、篠原西町自治会役員の方々は見学に参加されました。第1ステージ(資機材取扱)、第2ステージ(放水訓練)、第3ステージ(遠距離送水訓練)に亘り各種訓練を実施しました。特に今回の訓練の「目玉」とも言えるのが一〇〇ミリの大口径ホースによる遠距離送水訓練でした。まず第1ステージにおいてその実物を目にしたときは、日頃団活動において馴染んでいる六五ミリホースと比べ、その様、結合方式、重量等々大げさに言えば全く異質のものと感じる程でした。第2ステージの遠距離送水訓練におけるその送水力は常識を超えるものと言っていい程の威力を発揮しあっという間に簡易水槽に水が溜まりました。実際に狭隘路地域における火災が発生した際、消防車が進入できない状況のもとでは大いにその威力が期待できると感じました。第3ステージにおいては、一〇〇ミリホース等遠距離送水資機材で消防隊と消防団が連携し延焼拡大地域内を想定した簡易水槽に送水。その水利を活用し、①消防隊の集水媒介金具からの直接取水による放水訓練、②消防団による可搬式ポンプから六五ミリホースに双口媒介を介しての四〇ミリホース二本のガンタイプノズル放水訓練、③公園内曲折階段を利用した延焼防止ラインの設置及び避難誘導線の確保のためのウォーターカーテンホースの設定訓練等々が行われました。今回の訓練でクローズアップしたのは、一〇〇ミリホースの傾斜地での逆流水圧が掛かった状態での低位での連結解除に困難をきたしたことです。連結解除時の水抜き装置等の改善が求められます。昨年より開始された消防活動拠点訓練は、大規模災害発生時の行政による公助機能不全を想定し、如何に地域の共助機能の一つとしての消防団活動でそれを補完し得るかを実地で体感する有効な機会と、私自身参加して改めて思いました。これからも一層消防署と消防団の連携強化が望まれるとともに、実地に役立つ連携訓練の継続実施が必要と感じます。ありがとうございました。

## 小泉正本部部長　藍綬褒章を受章

第三分団　第三班　班長　髙木　英二

小泉正本部部長が平成二十六年四月藍綬褒章を受章されました。昭和四十九年に入団、部長・副分団長・分団長を歴任され四十年に亘り港北消防団員として港北消防団の発展と地域の防災活動に努力・貢献された事が認められて今回の栄えある受賞となりました。



リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

九月二十七日（土）新横浜プリンスホテルにて受章祝賀会が盛大に行われました。祝賀会は金子幹雄実行委員長の御挨拶に始まり、横山港北区長・武笠港北消防署長・嶋村港北消防団相談役を始め多くの御来賓の皆様から御祝辞を頂き、伊藤港北消防団長に乾杯の音頭をとって頂きました。

当日は本部役員・各分団正副分団長部長の皆様、御仕事関係・町内会関係・御親戚・御友人二百名余りの方にご参加を頂き、第二部では菊名囃子連の皆さんのお囃子と獅子舞が受章を祝い、菊名北町消防部員がポンプ操法を模した余興で会場を大いに沸かせた後、受章者御夫妻の華麗なダンスでご参加の皆様を魅了しました。最後は所属される三分団三班団員が全員揃いの半纏でステージにあがり、水前寺清子さんの歌う消防応援歌「消防団365歩のマーチ」を参加者全員で大合唱して港北消防団の発展を祝い祝賀会を大いに盛り上げました。

## 港北消防団に入団して

第四分団　第一班　山崎　拓人

私は平成二十五年に港北消防団に入団したまだ駆け出しの消防団員です。

この一年間の消防団活動を振り返り改めて消防団が地域に根ざした消防団であると感じています。

まず始めに体験したことは港北消防団夏季訓練会に小型ポンプ操法に出場したことです。平成二十五年に入団した私にとっては初めて出場する大会でした。大会に向けて訓練を始めた時はわからないことも多く失敗も多かったのですが、消防署員や消防団員の方々が支えて下さったおかげで無事夏季訓練会では第三位入賞で、優勝はできなかったのですが嬉しかったです。

次に夏から秋にかけての様々な訓練や消防署との連携した訓練など貴重な体験をさせていただき、まだまだ訓練が足りないと感じました。

また、年末年始には特別警備に従事し地域を巡回しました。年が明け出初式にも参加し、消防団員が規律正しく整列しているのをみて改めて気が引き締まりました。

一年間の消防団活動をとおして地域の「安全・安心」を守っていくには、これからもっと精進していき、またこの貴重な体験と感謝の気持ちを、今後の消防団の活動に生かして行こうと思っています。

これからもご指導よろしくお願いします。私も微力ながらも地域の為に頑張っていきたいと思います。

## 団署並びに中原消防団との合同訓練

第五分団　副分団長　森　茂

二、三日前までは雨の予報だった天候も好転した十一月十六日（日）第五分団と日吉出張所、それに加えて、大災害時には、行政区を越えた協力体制が必要との考えから親交を深めている川崎市中原消防団が加わり、合同で放水訓練を行った。訓練は、二連梯子で川底に降り、一部を塞き止め、それでもなお水深の浅い矢上川から小型ポンプに吸管二本を連結、低水位ストレーナーを使用して揚水、六十五ミリホース一本に筒先を装着して放水した。吸管二本を使用したため真空引きに時間がかかり、水圧も弱く、この方法ではホース一線のみしか延ばせない事を確認した。続いては、この揚水を水槽に溜め、小型ポンプからホースを延長した遠距離送水訓練に移行した。一般の道路を通行止めにしての訓練なので、あまり長くは延長出来ず、六十五ミリホース四本を使用、媒介を使用して四十ミリホース二線を連結し、ガンタイプノズルを使用しての放水訓練である。このノズルを初めて体験する団員も多く、中原消防団員からも「ホースが細い分軽くてガンタイプノズルも扱いやすい」と好評であった。今後は、この様な合同訓練を重ねてお互いに切磋琢磨し、大災害に備えたい。

## 消防の学習をして学んだこと

高田小学校　四年　木村　夏美　福寿　俊洋

私達は、「もし学校が火事になったらどうするのだろう。」という疑問から、消防の学習を進めることになりました。そこで高田小学校の消防計画について調べると、火事の通報から四分後には高田小に高田消防出張所の消防車が到着するそうです。早く出動するために急いで着替える様子を見せてもらいました。すごく重い装備をあっという間に着替えてしまう消防士さんがかっこよかったです。

その他にも高田消防出張所の化学消防車や消防士の方が二十四時間体制で勤務していることも知りました。私達の安全を守るための工夫や努力がたくさんありました。

大規模な火災や震災が起きると消防士の数が足りなくなってしまうそうです。そんな時は、町の中にいる消防団が活躍すると聞きました。消防団とはどんな人達なのか疑問に思い、第六分団の方々と学校で会うことになりました。消防団の方々は、普段は消防以外の仕事をしていて、火災や台風の時に消防士の方と協力して火を消したり、人を助けたりするそうです。仕事をもちながら、町のために働きたいという思いがすごいと思いました。

分団長さんが、最後に「自分の命は自分で守る」という話をしました。人に頼るばかりでなく、日頃から火事にならないように気をつけたり、地震に対する備えをして、安全な生活ができるようにしようと思いました。

## 消防団とは何か

高田小学校　四年　安田瑞希

私は、消防団はいつ出動してどんな活躍をしているのか考えました。消防団の出前授業の時に質問したいと思っていました。

消防団の方から大事な言葉を教えてもらいました。「自助・共助・公助」という言葉です。その中で私は「自助」が気になりました。自分の身は自分で守るということだそうです。「共助」はみんなで助け合うということだそうで私は近くの家の人と仲良くなった方がよいと思いました。「公助」の場合は消防署の人が助けに来てくれます。消防団は、いつもはほかの仕事をしていて、災害が起きると地域を守ってくれるので「共助」だと思います。

私がこの授業で思ったことは、火事の炎よりも煙の方が怖いということです。有害な煙を吸ってしまうと死んでしまうからです。私は、消防団の出前授業を受けて消防団員になってみたいなと思いました。

## 横浜消防出初式

第七分団　第二班　班長　小山　正則

一月十一日（日）、横浜消防出初式の放水演技に参加いたしました。

本番に備え、十二月七日（日）、横浜市消防訓練センターで放水演技の予行が行われ、放水の角度、高さが揃うまで、何度も練習を繰り返しました。

出初式当日の朝は、快晴で風も弱く、絶好の天気で本番を迎えました。午前九時、大桟橋に到着し、ポンプ他、資機材を設置。放水演技まで時間に余裕があり、展望デッキに上がると、大勢の見学者、カメラマンが出初式の開始を待っていました。

午前十一時に、赤レンガ倉庫の海側で、出初式が開会されると、私たちも少しずつ緊張感が増してきました。

十二時、放水準備完了。間もなくポンプ始動の号令があり、二十台のポンプが勢いよく音を立て始めました。

放水一分前・十秒前・放水開始の赤旗が振られました。その瞬間、四十本の水の矢が、大空高く上がっていきました。

一回目の放水が終わり、わずかな静寂の後、二回目の放水の合図がありました。再び、四十本の水の矢が、青空へ向かって一斉に上がりました。水のカーテンの向こうには、みなとみらいの高層ビルが霞んで見えました。

放水止めの号令がかかり、放水演技が無事終了すると、どこからともなく拍手が沸き、安堵感と充実感に包まれました。

出初式参加にあたり、港北消防署の皆様には、大変お世話になりました。深くお礼申し上げます。

## 「技術交換会」に参加して

第八分団　第一班　槙　清美　山口真由美

技術交換会に参加させていただき緊張のなか今までおこなってきた訓練礼式を改めて確認できたことはとても良かったと思います。

初めて、他の区の発表を見て港北区は中学校の救命講習が中心ですが、小学校の授業の一環で消防団の活動を知ってもらったり救急車を呼ぶ時にどのようにしたら良いかや、地域への消防団のアピールなど救命講習以外でも工夫している事にとても驚きました。

私たちの活動で一番身近な救命講習のレベルアップをはかっている区もあり見習うところがたくさんある交換会でした。

今回の交換会を通して、みんなで呼吸を合わせ行動する素晴らしさを感じることができ、訓練はとても大変で本番も緊張し過ぎてあっという間の一〇分間でしたが、充実した時間を送ることができました。

この様な機会は、一人でも多くの方が参加されると良いと思いました。

## 港北区内の火災情報

平成27年3月31日現在

火災発生状況

| 年別 | | 平成27年 | 平成26年 | 増△減 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 22 | 29 | △7 |
| 火災種別 | 建物 | 11 | 21 | △10 |
| | 林野 | 0 | 0 | 0 |
| | 車両 | 0 | 2 | △2 |
| | 船舶 | 0 | 0 | 0 |
| | 航空機 | 0 | 0 | 0 |
| | 雑草 | 3 | 1 | 2 |
| | その他 | 8 | 5 | 3 |
| 損害 | 焼損床面積 | 987 | 488 | 499 |
| | 死者 | 1 | 0 | 1 |
| | 焼死者 | 1 | 0 | 1 |
| | 放火自殺 | 0 | 0 | 0 |
| | 負傷者 | 3 | 6 | △3 |

主な出火原因

| | 年別 | 平成27年 | 平成26年 | 増△減 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 放火（疑いを含む） | 8 | 9 | △1 |
| 2 | こんろ | 3 | 0 | 3 |
| 3 | たばこ | 2 | 4 | △2 |
| 4 | その他の移動熱電器 | 1 | 0 | 1 |
| 5 | その他の電気機器 | 1 | 0 | 1 |

## 編集後記

消防団員及び各方面から原稿をお寄せ下さり有難うございました。年を重ねる毎に自然災害の規模は大きくなっている様に思われます。それに伴い各自治会・町内会の防災意識も高揚の方向にあるようです。「港北の消防」も皆様の投稿を多くの方々に読んで頂き、自助・共助の輪を拡げていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

第十八期編集委員

第一分団　本部　飯田　孝彦
第二分団　本部　加藤　修（編集顧問）
第三分団　岩田　文夫
第四分団　砂田　俊彦
第五分団　齋藤　信之
第六分団　小嶋　清司
第七分団　森　茂
第八分団　川下　省二
　　米山　政勝
　　草山　恵子
（編集委員長）